



市民の安全・安心を守る

特集

消防最前線

自治体が運営する消防制度が始まり、70年がたちました。磐田市では、現在約2000人の消防職員が市民の皆さんの安全・安心のため、日々、生命の最前線で働いています。ここでは、火災や救急の現場で一人でも多くの命を救うための消防の取り組みを紹介します。

自治体消防は70周年

昭和23年3月7日に消防組織法が施行され、市町村消防の原則に基づく現在の自治体消防制度が確立し、昨年3月に70周年を迎えました。

磐田市では、昭和33年に「磐田市消防団常備部」が15人の部員と消防タンク車1台で発足し、翌34年に旧磐田市区を管轄する「磐田市消防本部」が誕生しました。

その後、周辺町村との組合を経て、平成17年の市町村合併により現在の「磐田市消防本部」が組織されています。

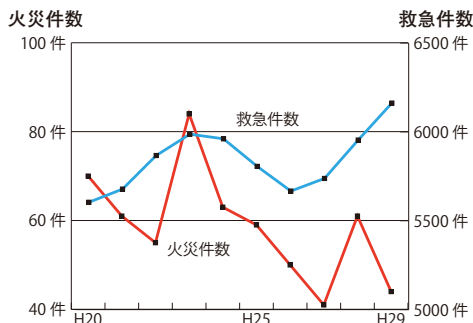
昭和34年を起点とする「磐田市消防本部」の歴史は、今年で60年を迎えます。昭和の整った車両を導入するとともに、それを運用する職員も日々訓練に励んでいます。

火災の減少と救急の増加

過去10年間の統計を見ると、磐田市での火災の発生件数は減少傾向にあります。一方で救急による出場件数は年々増加し、緊急性のない救急要請の在り方が問題となっています。

一人でも多くの命を救うために

磐田市消防本部では、火災や救急、救助の現場で一人でも多くの命を救うため、装備



過去10年間の火災・救急出場件数の推移

—消防士—

きょう お
後藤 喬雄 (左)
ゆう と
澤中 雄斗



後藤：実際の火災現場では、頭を使い、考える活動が多いです。体力には自信がありますが、深夜や氷点下での出動など、想定を上回る大変な現場にも遭遇しました。火災が減るのはうれしいですが、いざという時はどんな状況でも冷静な判断ができるよう、日々取り組んでいます。

澤中：消防士は幼い頃からの憧れでした。消防車でパトロールに出た際に、子どもたちが手を振ってくれるとうれしいですね。磐田が好きなので、少しでも火災が減るよう、住宅用火災警報器の設置や火の取り扱いなど、市民の皆さんに火災予防を理解してもらえよう努力しています。

平成29年の市内の火災発生件数は44件。過去10年間で比較すると、平成27年の41件に次いで2番目に少なかった。しかし、火災は無くならない。出火原因は、たばこの火の不始末や放火（疑いも含む）が上位を占める。一人一人の心掛けで防ぐことができることもあるはずだ。消防の最前線で働く消防士の活動を聞いた。



インタビュー

守りたいものがある



平成29年の救急出場件数は、過去最多の6,162件。このうち急病によるものは約60%を占める。しかし、単なる風邪や歯の痛みなどによる通報も後を絶たない。市内にある救急車は限られている。本当に救急車を必要とする人への対応が遅れることがないよう、私たち一人一人に救急車の適正利用が求められている。



—救急救命士—

ともろう
白畑 智朗 (左)
ともひろ
大石 知弘



白畑：救急の出場件数は年々増えています。1日12～13件の出場は体力的にキツイこともあります。1分1秒を争う救命の現場では冷静さを保つよう心掛けています。通報者や家族の協力で、持病やかかりつけ医を伝えてもらえることで救命活動がスムーズに行えます。

大石：救急隊にとっては、例えその日の10件目の出場でも、通報者にとっては一生に一度かもしれません。"もしも"の時に救急車を呼ぶことのために持たないよう、どんな時でも傷病者だけでなく、その家族や通報者にも寄り添うことができる救急救命士を心掛けています。

教えて！ べっくん



磐田消防イメージキャラクターの「べっくん」が消防の疑問に答えます。

Q どうして消防車は「赤」、救急車は「白」なの？

A 消防車や救急車の色は法律で決められています。日本で一番初めに外国から輸入された消防車と救急車が、それぞれ赤色と白色だったためと言われています。

Q 救急の現場に消防車がいたのですが？

A 磐田市消防本部では、消防隊が救急隊の活動を支援する「PA連携」を実施しています。救命のために一刻を争う事態に、救命・救出・救護活動をこれまで以上に素早く、確実かつ安全に行うことができます。

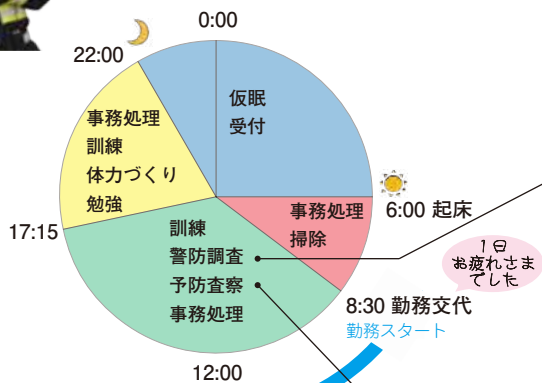
Q はしご車のはしごは何メートル伸びるの？

A 磐田市消防本部のはしご付消防車は、30メートル級のはしごを備えています。マンションの10階くらいまで届きます。



消防24時

消防署・分遣所の仕事は24時間体制。隊員は1日ごとの交代制で勤務しています。消防署員の勤務日の流れを見てみましょう。



■ 警防調査 (水利点検)
消火栓から水が出るか、防火水槽の水が減っていないか点検します。



■ 予防査察
店舗や工場などの消火設備が整っているかなどを調べ、指導します。



磐田を守る 消防車両

一言で「消防車」といっても、使う目的によってその形や装備は異なります。磐田市消防本部の車両の一部を紹介します。

水槽付消防ポンプ車 (化学車)

500mlのペットボトル2600本分の水を積み、防火水槽や消火栓が無くても放水することができます。また、水では消すことのできない油火災などの際は、水と薬剤を混ぜ合わせた泡を放水して火を消します。



救急車

病気や事故でケガをした人などに応急処置を施し、病院に運びます。車内には担架はもちろん、AEDや人工呼吸器、気道確保用の器具など、搬送される人の応急処置に必要な資機材を備えています。



消防は、 生命の最前線

磐田市消防本部の体制

磐田市消防本部は、1本部、1消防署、5分遣所で構成されています。

本部では、車両や資機材の整備、消防団、火災予防など、消防の運営全般に関することを行っています。一方、消防署・各分遣所では、地域への火災予防の啓発活動を行いながら、火災や救急、救助の現場で活動する消防隊員らが待機しています。

また、このほかにも中東遠地域が共同で運用する中東遠消防指令センターがあります。

消火活動だけが

消防ではない

消防の仕事は、火災の際に駆け付けて消火活動をするにとだけではありません。

消火活動以上に大切なのは、火災を起こさないこと。予防課では、市内で開催される軽

トラ市やスポーツイベントなどで、消防団などと協力して住宅用火災警報器の設置や寝たばこの禁止など、火災予防の啓発活動に取り組んでいます。



▲磐田消防イメージキャラクター「べっくん」。モチーフは、市の昆虫ベッコウトンボ。イベント会場などで火災予防の啓発活動に取り組んでいる。

1分1秒を争う 救急の現場

救急に欠かせない

救急救命士

救急車が消防署から来ることを知っていますか。市内の消防署・分遣所には救急車が各1台配備されています。

中東遠消防指令センター

～指令の広域化～

中東遠消防指令センター

通信指令員 ^{かずみち} 山田 一路
(救急救命士)



中東遠消防指令センターは、119番通報を受け、各隊に出動を指示する役割を担います。磐田市から御前崎市にかけての5消防本部が共同で運用しています。通報の際に、現場に最も近い車両が出動できるように、各消防本部のどの車両がどこにいるかがディスプレイ上に表示され、各消防本部への指令が効率的に行えるようになっています。

通報者と現場とのつなぎ

役として、現場で隊員が困らないように必要な情報を伝えるよう心掛けています。

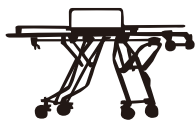
119番通報の際には、多くの場合これらの車両が現場に向きます。現場への到着は、平均で通報から6〜7分で、平成29年度全国平均8・5分よりも短くなっています。

救急隊は3人1組で活動します。国の基準では、このうち最低1人を救急救命士とすることが目標とされています。磐田市の場合、救急救命士2人の乗車体制となっています。救急救命士がいることで、傷病者に観察・処置を施しながら医療機関まで搬送することが可能になり、救命率が向上しています。

変わる救急業務

現場に駆け付け、急病人を乗せたらすぐに病院に搬送する。救急車にそんなイメージを持っていませんか。

救急車に救急救命士が乗車することで、現在は現場で高度な救急処置を施してから病院に搬送することが多くなっています。そのため、現場の滞在時間が増えていますが、これは、しっかりと処置をして病院での治療につなぐためです。



安全・安心のために

火災や急病などから市民の皆さんの生命や生活を守るのが消防の役目です。事故や急病は予期せず起こることもあります。しかし、火災を起こさないように心掛けることは誰にでもできることです。ご自宅の火災予防対策をもう一度考えてみませんか。

また、救急の現場では1分1秒が大切です。救急車の役目を再確認し、適正な利用を心掛けましょう。

一人一人の心掛けが、まちな安全・安心につながります。皆さんのご理解とご協力をお願いします。

